



ナシの新しい栽培法「樹体ジョイント仕立て」

(特許出願中)

果樹花き研究部

「木と木をつなげる」発想から大きな可能性が生まれる

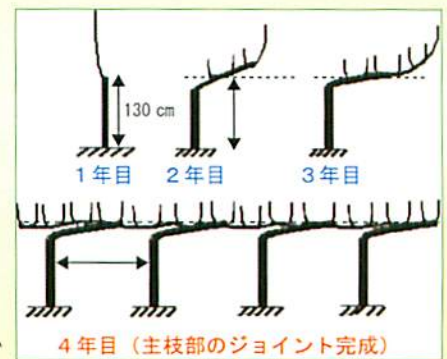


木と木をつなげてナシ樹を仕立てる発想は、今から10年以上前の旧園芸試験場時代にさかのぼります。2m間隔に定植した1本主枝の2年生苗を一定方向に棚付けし、約2年間主枝を伸ばし、主枝先端が隣接樹に到達したら、直線状の主枝を接ぎ木により連結完成させます(左写真、下図)。ナシの樹をつなげただけで、そこから大きな可能性が生まれることが明らかになってきました。

早期多収と省力化

一本の樹を育てる期間が樹をつなげることで大幅に短縮し、さらに、これまで果実をあまり実らすことができなかった部分も減少することから、これまで成園化まで10年近くかかったものが、植栽後4年で2トン/10アール、6年ではほぼ成園並の3トン/10アールの収穫量が得られ、早期多収が実現できます。また、樹形が単純化、直線化することにより、剪定が容易になり作業時間が短縮し、受粉、摘果、収穫作業等の効率化も図られます。

本年度から全国にこの栽培法を普及し、ナシ産地が持続的に発展するための産学共同研究として「先端技術を活用した農林水産研究高度化事業」に採択され、4年間の予定で研究が始まっています。



相模原市におけるブルーベリーの普及に取り組んでいます

北相地区事務所

ブルーベリーは、近年の健康食ブームに乗り、相模原市では、生産者及び生産面積が増え、摘み取りを中心に販売がされており、消費者にも非常に喜ばれています。

ブルーベリーは、強酸性土壌を好むことに加え、ひげ根で、乾燥に弱いといった特性を持つことから、土壌管理が重要な作物であるため、農業技術センター北相地区事務所では、剪定などとともに、土壌管理に重点を置いた指導を行い、高品質安定生産の技術向上に取り組んでいます。



ブルーベリーの果実



ブルーベリーの栽培の様子

また、昨今、ブルーベリーの育種が進み、多くの品種が育成されていますが、相模原市の地域に合った品種の選定などを生産者の協力を得て、普及に努力しています。

今後、より多くの生産者、栽培面積の拡大を図り、相模原市を中心とした神奈川県の新なたんぱく品となるように取り組んでいます。